

ずいそう

## 仙台と高校とロック

橋 知久



東北大震災後の5月の昼休み、笹かまぼこの加工場が被害を受けた話題になり「今、仙台で笹かまぼこは売っているの」「真空パックより炙りたてが美味しい」「仙台は牛タンやホヤもあるよね」「食べなくなった」となって早速「ぐるなび」で検索。

すると亀戸にある「仙台や」がヒット、仕事帰りに社内の飲み仲間と一緒に向かった。亀戸横町の中が一番奥まった所に店はあり牛タンや笹かまぼこ、懐かしい定義山の三角揚げ(ちょっと厚めの油揚げを焼いて、ねぎ、鰹節を乗せ、七味と醤油をかけて食べる。安くてつまみに最高)、等、仙台名物をつまみに能書きを言いながら飲んでた。

そのうちおっさんグループに興味を持ったのかオーナーが挨拶に出てきた。最初は気づかなかったが、「仙台出身?」「仙台のどの辺に住んでいたの?」そんな会話をしている途中で何処かで見たとあるおっさんだと思いつつ(最近中々思い出せないケースが多いので気にしない様になっている)気持ちよく飲んでいたら突然「もしかして橋?!」その瞬間自分も一気に記憶が甦り「明男?」高校卒業後38年ぶりに同級生との感動?の再会となった。

当時、仙台の高校は男女別学で公立男子校は制服が廃止になっており私服で通学していた。自分は髪の毛をしっかり肩まで伸ばしベルボトムGパンのスソを伸ばし、靴はヘビ皮8センチヒールの正統ロン毛派。今はなくなってしまったが市内電車で通っていた。

女子との接点は交歓会(今の合コン)。休みの日にゲームをしてお弁当を食べるだけだが、春は勾当台公園、秋は広瀬川の河原で芋煮会、冬はもちろんスケート(これは女子と手をつなげる最大のチャンス)、それなりに都会で自然も豊かな仙台の街が大好きで高校生活を謳歌していた。

いつの間にか厨房機器会社の社長で「仙台や」のオーナーにもなっていた明男も高校時代と一緒に過ごした仲間。思い出話に花が咲き、一番の話題は音楽、特に

ロック。今考えればあきれるほど当時は熱中していた。

拓郎、陽水、かぐや姫からフォークソングを聞き始め、当然の様にギターにチャレンジをするが難しいコード(F, F#m, Bm, 等)が押えられなく、「旅の宿」をアルペジオで弾こうとするが指が動かない。大多数がここで挫折する。もちろん自分もその一人。その後はギターを弾く事から音楽を聴く事に変化していく。同時に好みもフォークからロックに変わる。

レッドツェッペリン、ディープパープル、CCR、シカゴ、イーグルス、ピンクフロイド、ムーディブルー、サンタナやELP、ひたすら聞きまくっていた。

ギタリストでは誰がすごい? リッチーブラックモア、テリーカス、やっぱクラプトン、いやサンタナのギターは泣けるぜ! そんな日々…。

今でも懐かしいグループが来日すればコンサートに行ってしまう。当時好きだったグループのメンバーも年をとり、昨年行ったシカゴのコンサートではロバートラムが「お爺さんになってしまいました」と挨拶していた。

たまに海外に行くとロックコンサートのDVDを探すが習慣に。気に入ったDVDがあれば若手の社員に無理やり貸して感想を聞く悪趣味おっさんになっている。

子供時代転校が多く、仙台には中学の1年間と高校3年間の計4年間しか住んではいないが、「出身は?」と聞かれると迷わず「仙台」と答えている。それだけ思い入れが強く印象深い町が仙台だと思っている。

今、仙台や被災地に出張で行く事が多く、又仕事柄復旧関連の仕事にも携わっている。

微力だが力になればと思いつつ「一日でも早い復興を願っている」そんな一人です。